

文章題テスト・小説(5)

月 日
名 前

8
問正解

★次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ずっとずっとむかし、修平しゅうへいという男の子が、夕ぐれどきの道を考えこみながら歩いていました。

修平は、なかのいい友だちと、学校のでらん会に虫かごをつくって出そうやと、やくそくしたのです。もともと修平は、手さきがきようでしたから、これはひとつ、あたりまえのしかくい、おりのような虫かごとはまったくちがう虫かごをつくってやろうと、思ったのでした。

「どんなのにしようかなあ。」

しきりと、首をひねりながら、まばらな林にはいろいろとしたとき、ふいに修平は、①、うしろにたおれそうになりました。

こしにさげていたべんとうはこのつつみがいきなり、ひっぱられたのです。「だれだあー！」

おこってふりむくと——だれもいません。やぶにひっかけたのかなと思って、修平は、歩き出しました。

すると、また！

くいくいっと、ひっぱられました。

修平は、②、ふりむきました。

やぶが、かさかさとなって、きいろいものが、さっとかくれました。

(ははあん、きつねっこだな。)

³ 修平は、くすつとわらいました。

このあたりは、ときどき、きつねの出るところです。

⁴ 修平は、さっさと歩いていきました。こんなときは、知らんぷりをしているにかぎります。きつねにかまうと、ばかされると、おとなたちにいわれていますから。

(瀬尾七重「きつねの虫かご」より)

(注) まばらな林…木がちらほらと、間をあけて生えている林

1 線1 「考えこみながら」について、次の①、②に答えなさい。
 ① これとほぼ同じ意味の言葉を、文中から八字で書きぬきなさい。

首をひねりながら

「首をひねる」は考えこむようすを、「首をかしげる」は、ふしぎに思っけて首をかたむけるようすを表す言葉。

② 修平は、何を考えこんでいたのですか。次の文の□に当てはまる言葉を、十字でいどで書きなさい。
修平の言葉「どんなのしようかなあ」がヒントになる。「どんなの」を「どんな虫かご」に、「しよう」を「つくろう」に、それぞれおきかえて答える。

どんな

(例) 虫かごをつくろうか

ということ。

2 線2 「あたりまえの」にもっとも近い意味の言葉を、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア かんたんな

イ ありふれた

「あたりまえ」には、「当然」という意味のほか、「ごく普通」という意味がある。

ウ わざとらしい

エ りっぱな

3 ①、②に当てはまる言葉としてもふさわしいものを、ア～エからそれぞれ選んで、記号を書きなさい。
①には、ふいに(急に)うしろにひっぱられたときのようすを表す言葉が、②には、ふりむくようすを表す言葉が、それぞれ当てはまる。

ア かくんと

イ ぶらりと

① ア

② エ

ウ じっと

エ くるっと

4 線3 「修平は、くすつとわらいました」とありますが、このときの修平の気持ちとしてもふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア べんとうはこのつつみをひっぱったのがきつねだとわかって、楽しい気持ちになっている。
「はあ、きつねっこだな」という言葉に、もっともふさわしい気持ちを選び、「知らんぷりをしているにかぎります」とあるので、イヤウは当てはまらない。

イ 小さなきつねと遊ぶことができる、うれしい気持ちになっている。

ウ やぶにかくれたきつねに、何とかいたずらをしかえしてやろうと、うきうきした気持ちになっている。

エ きつねがにげていったので、もういたずらされないほっとした気持ちになっている。

5 線4 「修平は、さっさと歩いていきました」とありますが、この理由を次のようにせつめいしました。
 ①、②に当てはまる言葉を、それぞれ文中から五字で書きぬきなさい。
すぐ後に書かれている。「ばかす」は、だます、たぶらかす、という意味。

きつねにかまうと

①

②

をしようと思ったから。

①

ばかされる

②

知らんぷり